

「小学校算数」学習指導要領新旧対照表

現行（平成 20 年告示／平成 27 年道徳改訂版）	新（平成 29 年告示）	備 考
<p>第 1 目 標</p> <p>算数的活動を通して，数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け，日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え，表現する能力を育てるとともに，算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き，進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。</p>	<p>第 1 目 標</p> <p>数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに，日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力，基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き，学習を振り返ってよりよく問題解決する態度，算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p>	<p>教科の目標が，資質・能力の三つの柱に対応するかたちで整理され，示されている。</p> <p>(1) 知識・技能</p> <p>(2) 思考力・判断力・表現力等</p> <p>(3) 学びに向かう力・人間性等</p>
<p>第 2 各学年の目標及び内容</p> <p>〔第 1 学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 具体物を用いた活動などを通して，数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方について理解できるようにするとともに，加法及び減法の意味について理解し，それらの計算の仕方を考え，用いることができるようにする。</p> <p>(2) 具体物を用いた活動などを通して，量とその測定についての理解の基礎となる経験を重ね，量の大きさについての感覚を豊かにする。</p> <p>(3) 具体物を用いた活動などを通して，図形についての理解の基礎となる経験を重ね，図形についての感覚を豊かにする。</p> <p>(4) 具体物を用いた活動などを通して，数量やその関係を言葉，</p>	<p>第 2 各学年の目標及び内容</p> <p>〔第 1 学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 数の概念とその表し方及び計算の意味を理解し，量，図形及び数量の関係についての理解の基礎となる経験を重ね，数量や図形についての感覚を豊かにするとともに，加法及び減法の計算をしたり，形を構成したり，身の回りにある量の大きさを比べたり，簡単な絵や図などに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) ものの数に着目し，具体物や図などを用いて数の数え方や計算の仕方を考える力，ものの形に着目して特徴を捉えたり，具体的な操作を通して形の構成について考えたりする力，身</p>	<p>各学年の目標が，教科の目標に準じて，資質・能力の三つの柱に対応するかたちで整理され，示されている。</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>数、式、図などに表したり読み取ったりすることができるようにする。</p> <p>2 内容 A 数と計算 (1) ものの個数を数えることなどの活動を通して、数の意味について理解し、数を用いることができるようにする。</p> <p>ア ものとももの対応させることによって、ものの個数を比べること。 イ 個数や順番を正しく数えたり表したりすること。 ウ 数の大小や順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすること。 エ 一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。 オ 2 位数の表し方について理解すること。 カ 簡単な場合について、3 位数の表し方を知ること。 キ 数を十を単位としてみること。</p> <p>【算数的活動】(1) ア 具体物をまとめて数えたり等分したりし、それを整理して表す活動】</p> <p>(2) 加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。</p> <p>ア 加法及び減法が用いられる場合について知ること。</p>	<p>の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の大きさの比べ方を考える力、データの個数に着目して身の回りの事象の特徴を捉える力などを養う。</p> <p>(3) 数量や図形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。</p> <p>2 内容 A 数と計算 (1) 数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) ものとももの対応させることによって、ものの個数を比べること。 (イ) 個数や順番を正しく数えたり表したりすること。 (ウ) 数の大小や順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすること。 (エ) 一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。 (オ) 2 位数の表し方について理解すること。 (カ) 簡単な場合について、3 位数の表し方を知ること。 (キ) 数を、十を単位としてみること。 (ク) 具体物をまとめて数えたり等分したりして整理し、表すこと。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考え、それらを日常生活に生かすこと。</p> <p>(2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 加法及び減法の意味について理解し、それらが用いら</p>	<p>「2 内容」の各項目について、数学的活動を通して、「ア 知識及び技能」、「イ 思考力、判断力、表現力等」を身に付けることができるように指導する。</p> <p>現行〔算数的活動〕(1) ア⇒新 A 数と計算 (1) ア (ク)</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>【D 数量関係 (1) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにする。】</p> <p>イ 1 位数と 1 位数との加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が確実にできること。</p> <p>ウ 簡単な場合について、2 位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えること。</p> <p>C 図形</p> <p>(1) 身の回りにあるものの形についての観察や構成などの活動を通して、図形についての理解の基礎となる経験を豊かにする。</p> <p>ア ものの形を認めたり、形の特徴をとらえたりすること。</p> <p>【算数的活動】(1) エ 身の回りから、いろいろな形を見つけたり、具体物を用いて形を作ったり分解したりする活動】</p> <p>イ 前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉を正しく用いて、ものの位置を言い表すこと。</p> <p>B 量と測定</p> <p>(1) 大きさを比較するなどの活動を通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を豊かにする。</p>	<p>れる場合について知ること。</p> <p>(イ) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。</p> <p>(ウ) 1 位数と 1 位数の加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。</p> <p>(エ) 簡単な場合について、2 位数などについても加法及び減法ができることを知ること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。</p> <p>B 図形</p> <p>(1) 身の回りにあるものの形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) ものの形を認め、形の特徴を知ること。</p> <p>(イ) 具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。</p> <p>(ウ) 前後、左右、上下など方向や位置についての言葉を用いて、ものの位置を表すこと。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりすること。</p> <p>C 測定</p> <p>(1) 身の回りのものの大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p>	<p>現行 D 数量関係(1)⇒新 A 数と計算(2)ア(イ)</p> <p>現行 C 図形⇒新 B 図形 (領域の再編成)</p> <p>現行〔算数的活動〕(1)エ⇒新 B 図形(1)ア(イ)</p> <p>・「正しく」を削除。「言い表す」を、「表す」に変更。</p> <p>現行 B 量と測定⇒新 C 測定 (領域の再編成)</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>ア 長さ、面積、体積を直接比べること。</p> <p>【算数的活動】(1) ウ 身の回りにあるものの長さ、面積、体積を直接比べたり、他のものを用いて比べたりする活動】</p> <p>イ 身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つかで大きさを比べること。</p> <p>(2) 日常生活の中で時刻を読むことができるようにする。</p> <p>D 数量関係</p> <p>(2) ものの個数を絵や図などを用いて表したり読み取ったりすることができるようにする。</p> <p>〔算数的活動〕</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」, 「B 量と測定」, 「C 図形」及び「D 数量関係」に示す事項については、例えば、次のような算数</p>	<p>(ア) 長さ、広さ、かさなどの量を、具体的な操作によって直接比べたり、他のものを用いて比べたりすること。</p> <p>(イ) 身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つかで大きさを比べること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 身の回りのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだすこと。</p> <p>(2) 時刻に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 日常生活の中で時刻を読むこと。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 時刻の読み方を用いて、時刻と日常生活を関連付けること。</p> <p>D データの活用</p> <p>(1) 数量の整理に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) ものの個数について、簡単な絵や図などに表したり、それらを読み取ったりすること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) データの個数に着目し、身の回りの事象の特徴を捉えること。</p> <p>〔数学的活動〕</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」, 「B 図形」, 「C 測定」及び「D データの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に</p>	<p>• 「長さ、面積、体積」を、「長さ、広さ、かさなどの量」に変更。「具体的な操作」を追加。</p> <p>現行〔算数的活動〕(1)ウ⇒新 C 測定(1)ア(ア)</p> <p>現行 D 数量関係⇒新 D データの活用 (領域の再編成)</p> <p>• 「簡単な」を追加。</p> <p>現行〔算数的活動〕⇒新〔数学的活動〕</p> <p>• 数学的活動として、学年ごとに類型が示されている。</p>

現行（平成20年告示／平成27年道徳改訂版）	新（平成29年告示）	備 考
<p>的活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 具体物をまとめて数えたり等分したりし、それを整理して表す活動</p> <p>イ 計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして表す活動</p> <p>ウ 身の回りにあるものの長さ、面積、体積を直接比べたり、他のものを用いて比べたりする活動</p> <p>エ 身の回りから、いろいろな形を見付けたり、具体物を用いて形を作ったり分解したりする活動</p> <p>オ 数量についての具体的な場面を式に表したり、式を具体的な場面に結び付けたりする活動</p> <p>〔用語・記号〕 一の位 十の位 + - =</p>	<p>取り組むものとする。</p> <p>ア 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数量や形を見いだす活動</p> <p>イ 日常生活の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動</p> <p>ウ 算数の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動</p> <p>エ 問題解決の過程や結果を、具体物や図を用いるなどして表現する活動</p> <p>〔用語・記号〕 一の位 十の位 + - =</p>	
<p>〔第2学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 具体物を用いた活動などを通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方についての理解を深めるとともに、加法及び減法についての理解を深め、用いることができるようにする。また、乗法の意味について理解し、その計算の仕方を考え、用いることができるようにする。</p> <p>(2) 具体物を用いた活動などを通して、長さや体積などの単位と測定について理解できるようにし、量の大きさについての感覚を豊かにする。</p> <p>(3) 具体物を用いた活動などを通して、三角形や四角形などの図形について理解できるようにし、図形についての感覚を豊かにする。</p> <p>(4) 具体物を用いた活動などを通して、数量やその関係を言葉、数、式、図、表、グラフなどに表したり読み取ったりするこ</p>	<p>〔第2学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 数の概念についての理解を深め、計算の意味と性質、基本的な図形概念、量の概念、簡単な表とグラフなどについて理解し、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、加法、減法及び乗法の計算をしたり、図形を構成したり、長さやかさなどを測定したり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数とその表現や数量の関係に着目し、必要に応じて具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察する力、平面図形の特徴を図形を構成する要素に着目して捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力、身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力、身の回りの事象をデータの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり考察したりする力などを養う。</p>	<p>各学年の目標が、教科の目標に準じて、資質・能力の三つの柱に対応するかたちで整理され、示されている。</p> <p>・「体積」を、「かさ」に変更。</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>とができるようにする。</p> <p>2 内 容</p> <p>A 数と計算</p> <p>(1) 数の意味や表し方について理解し、数を用いる能力を伸ばす。</p> <p>ア 同じ大きさの集まりにまとめて数えたり、分類して数えたりすること。</p> <p>イ 4 位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について理解すること。</p> <p>ウ 数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解すること。</p> <p>エ 一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。</p> <p>【算数的活動】(1) ア 身の回りから、整数が使われている場面を見付ける活動</p> <p>オ $1/2$、$1/4$ など簡単な分数について知ること。</p> <p>(2) 加法及び減法についての理解を深め、それらを用いる能力を伸ばす。</p> <p>ア 2 位数の加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が1位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し、それらの計算が確実にできること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。</p>	<p>(3) 数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p> <p>2 内 容</p> <p>A 数と計算</p> <p>(1) 数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 同じ大きさの集まりにまとめて数えたり、分類して数えたりすること。</p> <p>(イ) 4 位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について理解すること。</p> <p>(ウ) 数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解すること。</p> <p>(エ) 一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。</p> <p>(オ) 簡単な事柄を分類整理し、それを数を用いて表すこと。</p> <p>(カ) $1/2$、$1/3$ など簡単な分数について知ること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活に生かすこと。</p> <p>(2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 2 位数の加法及びその逆の減法の計算が、1 位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し、それらの計算が確実にできること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。</p>	<p>「2 内容」の各項目について、数学的活動を通して、「ア 知識及び技能」、「イ 思考力、判断力、表現力等」を身に付けることができるように指導する。</p> <p>現行〔算数的活動〕(1) ア⇒新 A 数と計算 (1) ア (オ)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「$1/4$」を、「$1/3$」に変更。

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>イ 簡単な場合について、3 位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えること。</p> <p>ウ 加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。</p> <p>【D 数量関係 (1) 加法と減法の相互関係について理解し、式を用いて説明できるようにする。】</p> <p>(3) 乗法の意味について理解し、それを用いることができるようにする。</p> <p>ア 乗法が用いられる場合について知ること。</p>	<p>(イ) 簡単な場合について、3 位数などの加法及び減法の計算の仕方を知ること。</p> <p>(ウ) 加法及び減法に関して成り立つ性質について理解すること。</p> <p>(エ) 加法と減法との相互関係について理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用し、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。</p> <p>(3) 乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 乗法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。</p>	<p>現行 D 数量関係 (1) ⇒ 新 A 数と計算 (2) ア (エ)</p>
<p>【D 数量関係 (2) 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにする。】</p> <p>イ 乗法に関して成り立つ簡単な性質を調べ、それを乗法九九を構成したり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。</p> <p>ウ 乗法九九について知り、1 位数と 1 位数との乗法の計算が確実にできること。</p> <p>エ 簡単な場合について、2 位数と 1 位数との乗法の計算の仕方を考えること。</p>	<p>(イ) 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。</p> <p>(ウ) 乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。</p> <p>(エ) 乗法九九について知り、1 位数と 1 位数との乗法の計算が確実にできること。</p> <p>(ウ) 簡単な場合について、2 位数と 1 位数との乗法の計算の仕方を知ること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確</p>	<p>現行 D 数量関係 (2) ⇒ 新 数と計算 (3) ア (イ)</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>C 図形</p> <p>(1) ものの形についての観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素に着目し、図形について理解できるようにする。</p> <p>ア 三角形, 四角形について知ること。 イ 正方形, 長方形, 直角三角形について知ること。 ウ 箱の形をしたものについて知ること。</p> <p>B 量と測定</p> <p>(1) 長さについて単位と測定の意味を理解し、長さの測定ができるようにする。 ア 長さの単位 (ミリメートル (mm), センチメートル (cm), メートル (m)) について知ること。 (2) 体積について単位と測定の意味を理解し、体積の測定ができるようにする。 ア 体積の単位 (ミリリットル (ml), デシリットル (dl), リットル (l)) について知ること。</p> <p>【算数的活動】(1) ウ 身の回りにあるものの長さや体積について、およその見当を付けたり、単位を用いて測定したりする活動】</p>	<p>かめをしたりすること。 (イ) 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。</p> <p>B 図形</p> <p>(1) 図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 三角形, 四角形について知ること。 (イ) 正方形, 長方形, 直角三角形について知ること。 (ウ) 正方形や長方形の面で構成される箱の形をしたものについて理解し、それらを構成したり分解したりすること。 イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。 (ア) 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、身の回りのものの形を図形として捉えること。</p> <p>C 測定</p> <p>(1) 量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 長さの単位 (ミリメートル (mm), センチメートル (cm), メートル (m)) 及びかさの単位 (ミリリットル (mL), デシリットル (dL), リットル (L)) について知り、測定の意味を理解すること。 (イ) 長さ及びかさについて、およその見当を付け、単位を適切に選択して測定すること。</p> <p>イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。</p>	<p>現行 C 図形⇒新 B 図形 (領域の再編成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ものの形」を、「図形」に変更。 「箱の形」を、「正方形や長方形の面で構成される箱の形」に変更。「それらを構成したり分解したりすること」を追加。 <p>現行 B 量と測定⇒新 C 測定 (領域の再編成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「体積の単位 (ミリリットル (ml), デシリットル (dl), リットル (l))」を、「かさの単位 (ミリリットル (mL), デシリットル (dL), リットル (L))」に変更。 <p>現行【算数的活動】(1)ウ⇒新 C 測定(1)ア(イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「用いて」を、「適切に選択して」に変更。

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>(3) 時間について理解し、それをを用いることができるようにする。</p> <p>ア 日、時、分について知り、それらの関係を理解すること。</p> <p>D 数量関係</p> <p>(3) 身の回りにある数量を分類整理し、簡単な表やグラフを用いて表したり読み取ったりすることができるようにする。</p> <p>〔算数的活動〕</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」, 「B 量と測定」, 「C 図形」及び「D 数量関係」に示す事項については、例えば、次のような算数的活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 身の回りから、整数が使われている場面を見付ける活動</p> <p>イ 乗法九九の表を構成したり観察したりして、計算の性質やきまりを見付ける活動</p> <p>ウ 身の回りにあるものの長さや体積について、およその見当を付けたり、単位を用いて測定したりする活動</p>	<p>(ア) 身の回りのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり、比べたりすること。</p> <p>(2) 時刻と時間に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 日、時、分について知り、それらの関係を理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 時間の単位に着目し、時刻や時間を日常生活に生かすこと。</p> <p>D データの活用</p> <p>(1) データの分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 身の回りにある数量を分類整理し、簡単な表やグラフを用いて表したり読み取ったりすること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) データを整理する観点に着目し、身の回りの事象について表やグラフを用いて考察すること。</p> <p>〔数学的活動〕</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」, 「B 図形」, 「C 測定」及び「D データの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。</p> <p>ア 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数量や図形に進んで関わる活動</p> <p>イ 日常の事象から見いだした算数の問題を、具体物、図、数、式などを用いて解決し、結果を確かめる活動</p> <p>ウ 算数の学習場面から見いだした算数の問題を、具体物、図、数、式などを用いて解決し、結果を確かめる活動</p>	<p>現行 D 数量関係⇒新 D データの活用 (領域の再編成)</p> <p>現行〔算数的活動〕⇒新〔数学的活動〕</p> <p>• 数学的活動として、学年ごとに類型が示されている。</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>エ 正方形, 長方形, 直角三角形をかいたり, 作ったり, それらで平面を敷き詰めたりする活動</p> <p>オ 加法と減法の相互関係を図や式に表し, 説明する活動</p> <p>〔用語・記号〕 単位 直線 直角 頂点 辺 面 × > <</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」の (1) については, 1 万についても取り扱うものとする。</p> <p>(2) 内容の「A 数と計算」の (2) 及び「D 数量関係」の (1) については, 必要な場合には, () や□などを用いることができる。</p> <p>(3) 内容の「A 数と計算」の (2) のウについては, 交換法則や結合法則を取り扱うものとする。</p> <p>(4) 内容の「A 数と計算」の (3) のイについては, 乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則を取り扱うものとする。</p> <p>【算数的活動】(1) エ 正方形, 長方形, 直角三角形をかいたり, 作ったり, それらで平面を敷き詰めたりする活動】</p>	<p>エ 問題解決の過程や結果を, 具体物, 図, 数, 式などを用いて表現し伝え合う活動</p> <p>〔用語・記号〕 直線 直角 頂点 辺 面 単位 × > <</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」の (1) については, 1 万についても取り扱うものとする。</p> <p>(2) 内容の「A 数と計算」の (2) については, 必要な場合には, () や□などを用いることができる。また, 計算の結果の見積りについて配慮するものとする。</p> <p>(3) 内容の「A 数と計算」の (2) のアのウについては, 交換法則や結合法則を取り扱うものとする。</p> <p>(4) 内容の「A 数と計算」の (3) のアのウについては, 主に乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則を取り扱うものとする。</p> <p>(5) 内容の「B 図形」の (1) のアのイに関連して, 正方形, 長方形が身の回りで多く使われていることが分かるようにするとともに, 敷き詰めるなどの操作的な活動を通して, 平面の広がりについての基礎となる経験を豊かにするよう配慮するものとする。</p>	<p>・見積りに関する記述を追加。</p> <p>・「主に」を追加。</p> <p>現行〔算数的活動〕(1) エ⇒新 内容の取扱い (5)</p> <p>・「正方形, 長方形が身の回りで多く使われていることが分かるようにする」等の配慮事項を追加。</p>
<p>〔第3学年〕</p> <p>1 目標</p> <p>(1) 加法及び減法を適切に用いることができるようにするとともに, 乗法についての理解を深め, 適切に用いることができるようにする。また, 除法の意味について理解し, その計算の仕方を考え, 用いることができるようにする。さらに, 小</p>	<p>〔第3学年〕</p> <p>1 目標</p> <p>(1) 数の表し方, 整数の計算の意味と性質, 小数及び分数の意味と表し方, 基本的な図形の概念, 量の概念, 棒グラフなどについて理解し, 数量や図形についての感覚を豊かにするとともに, 整数などの計算をしたり, 図形を構成したり, 長さや</p>	<p>各学年の目標が, 教科の目標に準じて, 資質・能力の三つの柱に対応するかたちで整理され, 示されている。</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>数及び分数の意味や表し方について理解できるようにする。</p> <p>(2) 長さ、重さ及び時間の単位と測定について理解できるようにする。</p> <p>(3) 図形を構成する要素に着目して、二等辺三角形や正三角形などの図形について理解できるようにする。</p> <p>(4) 数量やその関係を言葉、数、式、図、表、グラフなどに表したり読み取ったりすることができるようにする。</p> <p>2 内容</p> <p>A 数と計算</p> <p>(1) 整数の表し方についての理解を深め、数を用いる能力を伸ばす。</p> <p>ア 万の単位について知ること。</p> <p>イ 10 倍、100 倍、1/10 の大きさの数及びその表し方について知ること。</p> <p>ウ 数の相対的な大きさについての理解を深めること。</p> <p>(2) 加法及び減法の計算が確実にできるようにし、それらを適切に用いる能力を伸ばす。</p> <p>ア 3 位数や 4 位数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それ</p>	<p>重さなどを測定したり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数とその表現や数量の関係に着目し、必要に応じて具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察する力、平面図形の特徴を図形を構成する要素に着目して捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力、身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力、身の回りの事象をデータの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり適切に判断したりする力などを養う。</p> <p>(3) 数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p> <p>2 内容</p> <p>A 数と計算</p> <p>(1) 整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 万の単位について知ること。</p> <p>(イ) 10 倍、100 倍、1000 倍、1/10 の大きさの数及びそれらの表し方について知ること。</p> <p>(ウ) 数の相対的な大きさについての理解を深めること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を考え、日常生活に生かすこと。</p> <p>(2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 3 位数や 4 位数の加法及び減法の計算が、2 位数などに</p>	<p>「2 内容」の各項目について、数学的活動を通して、「ア 知識及び技能」、「イ 思考力、判断力、表現力等」を身に付けることができるように指導する。</p> <p>• 「1000 倍」を追加。</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>らの計算が2位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。</p> <p>イ 加法及び減法の計算が確実にでき、それらを適切に用いること。</p> <p>ウ 加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。</p> <p>(3) 乗法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。</p> <p>ア 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算の仕方を考え、それらの計算が乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。</p> <p>イ 乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。</p> <p>ウ 乗法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。</p> <p>(4) 除法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。</p>	<p>についての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。</p> <p>(イ) 加法及び減法の計算が確実にでき、それらを適切に用いること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (ア) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用し、計算を工夫したり、計算の確かめをしたりすること。</p> <p>(3) 乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (イ) 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。 (イ) 乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。 (ウ) 乗法に関して成り立つ性質について理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (ア) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。</p> <p>(4) 除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>ア 除法が用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。</p> <p>【D 数量関係 (1) 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにする。】</p> <p>イ 除法と乗法や減法との関係について理解すること。</p> <p>ウ 除数と商が共に 1 位数である除法の計算が確実にできること。</p> <p>エ 簡単な場合について、除数が 1 位数で商が 2 位数の除法の計算の仕方を考えること。</p> <p>(5) 小数の意味や表し方について理解できるようにする。</p> <p>ア 端数部分の大きさを表すのに小数を用いること。また、小数の表し方及び 1/10 の位について知ること。</p> <p>イ 1/10 の位までの小数の加法及び減法の意味について理解し、計算の仕方を考え、それらの計算ができること。</p> <p>(6) 分数の意味や表し方について理解できるようにする。</p>	<p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。</p> <p>(イ) 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。</p> <p>(ウ) 除法と乗法や減法との関係について理解すること。</p> <p>(エ) 除数と商が共に 1 位数である除法の計算が確実にできること。</p> <p>(オ) 簡単な場合について、除数が 1 位数で商が 2 位数の除法の計算の仕方を知ること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。</p> <p>(イ) 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。</p> <p>(5) 小数とその表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知ること。また、小数の表し方及び 1/10 の位について知ること。</p> <p>(イ) 1/10 の位までの小数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知ること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 数のまとまりに着目し、小数でも数を比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、小数を日常生活に生かすこと。</p> <p>(6) 分数とその表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>現行 D 数量関係(1)⇒新 A 数と計算(4)ア(イ)</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>ア 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いること。また、分数の表し方について知ること。</p> <p>イ 分数は、単位分数の幾つ分かで表せることを知ること。</p> <p>ウ 簡単な場合について、分数の加法及び減法の意味について理解し、計算の仕方を考えること。</p> <p>【D 数量関係 (2) 数量の関係を表す式について理解し、式を用いることができるようにする。</p> <p>ア 数量の関係を式に表したり、式と図を関連付けたりすること。</p> <p>イ 数量を□などを用いて表し、その関係を式に表したり、□などに数を当てはめて調べたりすること。】</p> <p>(7) そろばんによる数の表し方について知り、そろばんを用いて簡単な加法及び減法の計算ができるようにする。</p> <p>ア そろばんによる数の表し方について知ること。</p> <p>イ 加法及び減法の計算の仕方について知ること。</p>	<p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることを知ること。また、分数の表し方について知ること。</p> <p>(イ) 分数が単位分数の幾つ分かで表すことができることを知ること。</p> <p>(ウ) 簡単な場合について、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知ること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 数のまとまりに着目し、分数でも数を比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、分数を日常生活に生かすこと。</p> <p>(7) 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 数量の関係を表す式について理解するとともに、数量を□などを用いて表し、その関係を式に表したり、□などに数を当てはめて調べたりすること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 数量の関係に着目し、数量の関係を図や式を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて式を読んだりすること。</p> <p>(8) そろばんを用いた数の表し方と計算に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) そろばんによる数の表し方について知ること。</p> <p>(イ) 簡単な加法及び減法の計算の仕方について知り、計算すること。</p>	<p>現行 D 数量関係 (2) ⇒新 A 数と計算 (7)</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>C 図形</p> <p>(1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素に着目し、図形について理解できるようにする。</p> <p>ア 二等辺三角形，正三角形について知ること。</p> <p>イ 角について知ること。</p> <p>ウ 円，球について知ること。また，それらの中心，半径，直径について知ること。</p> <p>B 量と測定</p> <p>(1) 長さについての理解を深めるとともに，重さについて単位と測定の意味を理解し，重さの測定ができるようにする。</p> <p>ア 長さの単位（キロメートル（km））について知ること。</p> <p>イ 重さの単位（グラム（g），キログラム（kg））について知ること。</p> <p>(2) 長さや重さについて，およその見当を付けたり，目的に応じて単位や計器を適切に選んで測定したりできるようにする。</p> <p>【第 6 学年 B 量と測定 (5) メートル法の単位の仕組みについて理解できるようにする。】</p>	<p>イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) そろばんの仕組みに着目し，大きな数や小数の計算の仕方を考えること。</p> <p>B 図形</p> <p>(1) 図形に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 二等辺三角形，正三角形などについて知り，作図などを通してそれらの関係に次第に着目すること。</p> <p>(イ) 基本的な図形と関連して角について知ること。</p> <p>(ウ) 円について，中心，半径，直径を知ること。また，円に関連して，球についても直径などを知ること。</p> <p>イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 図形を構成する要素に着目し，構成の仕方を考えるとともに，図形の性質を見だし，身の回りのものの形を図形として捉えること。</p> <p>C 測定</p> <p>(1) 量の単位と測定に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 長さの単位（キロメートル（km））及び重さの単位（グラム（g），キログラム（kg））について知り，測定の意味を理解すること。</p> <p>(イ) 長さや重さについて，適切な単位で表したり，およその見当を付け計器を適切に選んで測定したりすること。</p> <p>イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 身の回りのものの特徴に着目し，単位の関係を統合的に考察すること。</p>	<p>現行 C 図形⇒新 B 図形（領域の再編成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「作図などを通してそれらの関係に次第に着目すること」を追加。 ・「基本的な図形と関連して」を追加。 ・円に関する記述と，球に関する記述を分割。 <p>現行 B 量と測定⇒新 C 測定（領域の再編成）</p> <p>現行 第 6 学年 B 量と測定 (5) ⇒新 C 測定 (1) イ (ア)</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>(3) 時間について理解できるようにする。</p> <p>ア 秒について知ること。 イ 日常生活の中で必要となる時刻や時間を求めること。</p> <p>D 数量関係</p> <p>(3) 資料を分類整理し、表やグラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりすることができるようにする。</p> <p>【算数的活動】(1) オ 日時や場所などの観点から資料を分類整理し、表を用いて表す活動】</p> <p>ア 棒グラフの読み方やかき方について知ること。</p> <p>〔算数的活動〕</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」, 「B 量と測定」, 「C 図形」及び「D 数量関係」に示す事項については、例えば、次のような算数的活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 整数、小数及び分数についての計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動</p>	<p>(2) 時刻と時間に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 秒について知ること。 (イ) 日常生活に必要な時刻や時間を求めること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (ア) 時間の単位に着目し、時刻や時間の求め方について考察し、日常生活に生かすこと。</p> <p>D データの活用</p> <p>(1) データの分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 日時の観点や場所の観点などからデータを分類整理し、表に表したり読んだりすること。</p> <p>(イ) 棒グラフの特徴やその用い方を理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (ア) データを整理する観点に着目し、身の回りの事象について表やグラフを用いて考察して、見いだしたことを表現すること。</p> <p>〔数学的活動〕</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」, 「B 図形」, 「C 測定」及び「D データの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。</p> <p>ア 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数量や図形に進んで関わる活動</p>	<p>現行 D 数量関係⇒新 D データの活用 (領域の再編成)</p> <p>現行〔算数的活動〕(1) オ⇒新 D データの活用 (1) ア (ア)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「資料」を, 「データ」に変更。「読んだりすること」を追加。 「読み方やかき方について知る」を, 「特徴やその用い方を理解する」に変更。 <p>現行〔算数的活動〕⇒新〔数学的活動〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 数学的活動として、学年ごとに類型が示されている。

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>イ 小数や分数を具体物, 図, 数直線を用いて表し, 大きさを比べる活動</p> <p>ウ 長さ, 体積, 重さのそれぞれについて単位の間係を調べる活動</p> <p>エ 二等辺三角形や正三角形を定規とコンパスを用いて作図する活動</p> <p>オ 日時や場所などの観点から資料を分類整理し, 表を用いて表す活動</p> <p>〔用語・記号〕 等号 不等号 小数点 1/10 の位 数直線 分母 分子 ÷</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」の (1) については, 1 億についても取り扱うものとする。</p> <p>(2) 内容の「A 数と計算」の (2) 及び (3) については, 簡単な計算は暗算でできるように配慮するものとする。</p> <p>(3) 内容の「A 数と計算」の (2) のウについては, 交換法則や結合法則を取り扱うものとする。</p> <p>(4) 内容の「A 数と計算」の (3) については, 乗数又は被乗数が 0 の場合の計算についても取り扱うものとする。</p> <p>(5) 内容の「A 数と計算」の (3) のウについては, 交換法則, 結合法則や分配法則を取り扱うものとする。</p> <p>(6) 内容の「A 数と計算」の (5) 及び (6) については, 小数の 0.1 と分数の 1/10 などを数直線を用いて関連付けて取り扱うものとする。</p> <p>【算数的活動】エ 二等辺三角形や正三角形を定規とコンパスを用いて作図する活動】</p>	<p>イ 日常の事象から見いだした算数の問題を, 具体物, 図, 数, 式などを用いて解決し, 結果を確かめる活動</p> <p>ウ 算数の学習場面から見いだした算数の問題を, 具体物, 図, 数, 式などを用いて解決し, 結果を確かめる活動</p> <p>エ 問題解決の過程や結果を, 具体物, 図, 数, 式などを用いて表現し伝え合う活動</p> <p>〔用語・記号〕 等号 不等号 小数点 1/10 の位 数直線 分母 分子 ÷</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」の (1) については, 1 億についても取り扱うものとする。</p> <p>(2) 内容の「A 数と計算」の (2) 及び (3) については, 簡単な計算は暗算でできるように配慮するものとする。また, 計算の結果の見積りにについても触れるものとする。</p> <p>(3) 内容の「A 数と計算」の (3) については, 乗数又は被乗数が 0 の場合の計算についても取り扱うものとする。</p> <p>(4) 内容の「A 数と計算」の (3) のアのウについては, 交換法則, 結合法則, 分配法則を取り扱うものとする。</p> <p>(5) 内容の「A 数と計算」の (5) 及び (6) については, 小数の 0.1 と分数の 1/10 などを数直線を用いて関連付けて取り扱うものとする。</p> <p>(6) 内容の「B 図形」の (1) の基本的な図形については, 定規, コンパスなどを用いて, 図形をかいたり確かめたりする活動を重視するとともに, 三角形や円などを基にして模様をかく</p>	<p>• 見積りに関する記述を追加。</p> <p>• 加法及び減法に関して成り立つ性質について, 現行 (3) を削除。</p> <p>現行〔算数的活動〕エ⇒新 内容の取扱い (6)</p> <p>• 「確かめる活動」, 「模様をかく活動」や「図形のもつ美しさ」等の配慮事項を追加。</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>(7) 内容の「B 量と測定」の (1) のイについては、トン (t) の単位についても触れるものとする。</p> <p>【算数的活動】ウ 長さ、体積、重さのそれぞれについて単位 の関係を調べる活動】</p>	<p>などの具体的な活動を通して、図形のもつ美しさに関心をもたせるよう配慮するものとする。</p> <p>(7) 内容の「C 測定」の (1) については、重さの単位のトン (t) について触れるとともに、接頭語 (キロ (k) やミリ (m)) についても触れるものとする。</p> <p>(8) 内容の「D データの活用」の (1) のアの (イ) については、最小目盛りが 2, 5 又は 20, 50 などの棒グラフや、複数の棒グラフを組み合わせたグラフなどにも触れるものとする。</p>	<p>現行〔算数的活動〕ウ⇒新内容の取扱い(7)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「接頭語 (キロ (k) やミリ (m)) について触れるものとする」を追加。 最小目盛りが 2, 5 又は 20, 50 などの棒グラフ、複数の棒グラフや組み合わせたグラフに関する記述を追加。
<p>〔第 4 学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 除法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。また、小数及び分数の意味や表し方についての理解を深め、小数及び分数についての加法及び減法の意味を理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。さらに、概数について理解し、目的に応じて用いることができるようにする。</p> <p>(2) 面積の単位と測定について理解し、図形の面積を求めることができるようにするとともに、角の大きさの単位と測定について理解できるようにする。</p> <p>(3) 図形を構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察し、平行四辺形やひし形などの平面図形及び直方体などの立体図形について理解できるようにする。</p> <p>(4) 数量やその関係を言葉、数、式、図、表、グラフなどに表したり調べたりすることができるようにする。</p>	<p>〔第 4 学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 小数及び分数の意味と表し方、四則の関係、平面図形と立体図形、面積、角の大きさ、折れ線グラフなどについて理解するとともに、整数、小数及び分数の計算をしたり、図形を構成したり、図形の面積や角の大きさを求めたり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数とその表現や数量の関係に着目し、目的に合った表現方法を用いて計算の仕方などを考察する力、図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力、伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力などを養う。</p> <p>(3) 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさ</p>	<p>各学年の目標が、教科の目標に準じて、資質・能力の三つの柱に対応するかたちで整理され、示されている。</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>2 内 容</p> <p>A 数と計算</p> <p>(1) 整数が十進位取り記数法によって表されていることについての理解を深める。</p> <p>ア 億,兆の単位について知り,十進位取り記数法についてまとめること。</p> <p>(2) 概数について理解し,目的に応じて用いることができるようにする。</p> <p>ア 概数が用いられる場合について知ること。</p> <p>イ 四捨五入について知ること。</p> <p>ウ 目的に応じて四則計算の結果の見積りをすること。</p> <p>(3) 整数の除法についての理解を深め,その計算が確実にできるようにし,それを適切に用いる能力を伸ばす。</p> <p>ア 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算の仕方を考え,それらの計算が基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また,その筆算の仕方について</p>	<p>に気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p> <p>2 内 容</p> <p>A 数と計算</p> <p>(1) 整数の表し方に関わる数学的活動を通して,次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 億,兆の単位について知り,十進位取り記数法についての理解を深めること。</p> <p>イ 次のような思考力,判断力,表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 数のまとまりに着目し,大きな数の大きさの比べ方や表し方を統合的に捉えるとともに,それらを日常生活に生かすこと。</p> <p>(2) 概数に関わる数学的活動を通して,次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 概数が用いられる場合について知ること。</p> <p>(イ) 四捨五入について知ること。</p> <p>(ウ) 目的に応じて四則計算の結果の見積りをすること。</p> <p>イ 次のような思考力,判断力,表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 日常の事象における場面に着目し,目的に合った数の処理の仕方を考えるとともに,それを日常生活に生かすこと。</p> <p>(3) 整数の除法に関わる数学的活動を通して,次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が,基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また,その筆算の仕方について理解すること。</p>	<p>「2 内容」の各項目について,数学的活動を通して,「ア 知識及び技能」,「イ 思考力,判断力,表現力等」を身に付けることができるように指導する。</p> <p>•「まとめる」を,「深める」に変更。</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>ついて理解すること。</p> <p>イ 除法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。</p> <p>ウ 除法について、被除数、除数、商及び余りの間の関係を調べ、次の式にまとめること。 (被除数) = (除数) × (商) + (余り)</p> <p>エ 除法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。</p> <p>(5) 小数とその加法及び減法についての理解を深めるとともに、小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。</p> <p>ア 小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知るとともに、数の相対的な大きさについての理解を深めること。</p> <p>イ 小数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。</p> <p>ウ 乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算の仕方考え、それらの計算ができること。</p> <p>(6) 分数についての理解を深めるとともに、同分母の分数の加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができ</p>	<p>(イ) 除法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。</p> <p>(ウ) 除法について、次の関係を理解すること。 (被除数) = (除数) × (商) + (余り)</p> <p>(エ) 除法に関して成り立つ性質について理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (ア) 数量の関係に着目し、計算の仕方考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。</p> <p>(4) 小数とその計算に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを知ること。 (イ) 小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知るとともに、数の相対的な大きさについての理解を深めること。 (ウ) 小数の加法及び減法の計算ができること。</p> <p>(エ) 乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算ができること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (ア) 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方考えるとともに、それを日常生活に生かすこと。</p> <p>(5) 分数とその加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>• 小数倍に関する記述を追加。</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>るようにする。</p> <p>ア 簡単な場合について、大きさの等しい分数があることに着目すること。</p> <p>イ 同分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。</p> <p>【D 数量関係 (2) 数量の関係を表す式について理解し、式を用いることができるようにする。</p> <p>ア 四則の混合した式や () を用いた式について理解し、正しく計算すること。</p> <p>イ 公式についての考え方を理解し、公式を用いること。</p> <p>ウ 数量を□, △などを用いて表し、その関係を式に表したり、□, △などに数を当てはめて調べたりすること。】</p> <p>【D 数量関係 (3) 四則に関して成り立つ性質についての理解を深める。】</p>	<p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 簡単な場合について、大きさの等しい分数があることを知ること。</p> <p>(イ) 同分母の分数の加法及び減法の計算ができること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 数を構成する単位に着目し、大きさの等しい分数を探したり、計算の仕方を考えたりするとともに、それを日常生活に生かすこと。</p> <p>(6) 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 四則の混合した式や () を用いた式について理解し、正しく計算すること。</p> <p>(イ) 公式についての考え方を理解し、公式を用いること。</p> <p>(ウ) 数量を□, △などを用いて表し、その関係を式に表したり、□, △などに数を当てはめて調べたりすること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 問題場面の数量の關係に着目し、数量の關係を簡潔に、また一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりすること。</p> <p>(7) 計算に関して成り立つ性質に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 四則に関して成り立つ性質についての理解を深めること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 数量の關係に着目し、計算に関して成り立つ性質を用いて計算の仕方を考えること。</p>	<p>現行 D数量関係 (2) ⇒新 A 数と計算 (6)</p> <p>現行 D 数量関係 (3) ⇒新 A 数と計算 (7)</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>(7) そろばんを用いて、加法及び減法の計算ができるようにする。</p> <p>C 図形</p> <p>(1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目し、図形についての理解を深める。</p> <p>ア 直線の平行や垂直の関係について理解すること。 イ 平行四辺形、ひし形、台形について知ること。</p> <p>(2) 図形についての観察や構成などの活動を通して、立体図形について理解できるようにする。</p> <p>ア 立方体、直方体について知ること。 イ 直方体に関連して、直線や平面の平行や垂直の関係について理解すること。</p> <p>【内容の取扱い (6) 内容の「C 図形」の (2) のアについては、見取図や展開図をかくことを取り扱うものとする。】</p>	<p>(8) そろばんを用いた数の表し方と計算に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 加法及び減法の計算をすること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (ア) そろばんの仕組みに着目し、大きな数や小数の計算の仕方を考えること。</p> <p>B 図形</p> <p>(1) 平面図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 直線の平行や垂直の関係について理解すること。 (イ) 平行四辺形、ひし形、台形について知ること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (ア) 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を考察し図形の性質を見いだすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直すこと。</p> <p>(2) 立体図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 立方体、直方体について知ること。 (イ) 直方体に関連して、直線や平面の平行や垂直の関係について理解すること。 (ウ) 見取図、展開図について知ること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (ア) 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、立体図形の平面上での表現や構成の仕方を考察し図形の性質を見いだすとともに、日常の事象を図形の性質から</p>	<p>現行 C 図形⇒新 B 図形 (領域の再編成)</p> <p>現行 内容の取扱い (6) ⇒新 B 図形 (2) ア (ウ)</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>(3) ものの位置の表し方について理解できるようにする。</p> <p>【B 量と測定 (1) 面積について単位と測定の意味を理解し、面積を計算によって求めることができるようにする。</p> <p>ア 面積の単位(平方センチメートル(cm²), 平方メートル(m²), 平方キロメートル(km²))について知ること。</p> <p>イ 正方形及び長方形の面積の求め方を考えること。】</p> <p>【第6学年B量と測定 (5) メートル法の単位の仕組みについて理解できるようにする。】</p> <p>【B 量と測定 (2) 角の大きさについて単位と測定の意味を理解し、角の大きさの測定ができるようにする。</p> <p>ア 角の大きさを回転の大きさとしてとらえること。</p> <p>イ 角の大きさの単位(度(°))について知ること。】</p>	<p>捉え直すこと。</p> <p>(3) ものの位置に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) ものの位置の表し方について理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 平面や空間における位置を決める要素に着目し, その位置を数を用いて表現する方法を考察すること。</p> <p>(4) 平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 面積の単位(平方センチメートル(cm²), 平方メートル(m²), 平方キロメートル(km²))について知ること。</p> <p>(イ) 正方形及び長方形の面積の計算による求め方について理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 面積の単位や図形を構成する要素に着目し, 図形の面積の求め方を考えるとともに, 面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察すること。</p> <p>(5) 角の大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 角の大きさを回転の大きさとして捉えること。</p> <p>(イ) 角の大きさの単位(度(°))について知り, 角の大きさを測定すること。</p> <p>イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 図形の角の大きさに着目し, 角の大きさを柔軟に表現したり, 図形の考察に生かしたりすること。</p>	<p>現行 B 量と測定 (1) ⇒新 B 図形 (4)</p> <p>現行 第6学年B量と測定 (5) ⇒新 B 図形 (4) イ (ア)</p> <p>現行 B 量と測定 (2) ⇒新 B 図形 (5)</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>D 数量関係</p> <p>(1) 伴って変わる二つの数量の関係を表したり調べたりすることができるようにする。</p> <p>ア 変化の様子を折れ線グラフを用いて表したり, 変化の特徴を読み取ったりすること。</p>	<p>C 変化と関係</p> <p>(1) 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 変化の様子を表や式, 折れ線グラフを用いて表したり, 変化の特徴を読み取ったりすること。</p> <p>イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 伴って変わる二つの数量を見いだして, それらの関係に着目し, 表や式を用いて変化や対応の特徴を考察すること。</p> <p>(2) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 簡単な場合について, ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを知ること。</p> <p>イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 日常の事象における数量の関係に着目し, 図や式などを用いて, ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察すること。</p>	<p>現行 D 数量関係⇒新 C 変化と関係 (領域の再編成)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「表や式」を追加。 • 簡単な場合の割合に関する記述を追加。
<p>D 数量関係</p> <p>(4) 目的に応じて資料を集めて分類整理し, 表やグラフを用いて分かりやすく表したり, 特徴を調べたりすることができるようにする。</p> <p>ア 資料を二つの観点から分類整理して特徴を調べること。</p> <p>イ 折れ線グラフの読み方やかき方について知ること。</p>	<p>D データの活用</p> <p>(1) データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) データを二つの観点から分類整理する方法を知ること。</p> <p>(イ) 折れ線グラフの特徴とその用い方を理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 目的に応じてデータを集めて分類整理し, データの特</p>	<p>現行 D 数量関係⇒新 D データの活用 (領域の再編成)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「資料」を, 「データ」に変更。「分類整理して特徴を調べる」を, 「分類整理する方法を知る」に変更。 • 「読み方やかき方について知る」を, 「特徴と用い方を理解する」に変更。

現行（平成20年告示／平成27年道徳改訂版）	新（平成29年告示）	備 考
<p>〔算数的活動〕</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」, 「B 量と測定」, 「C 図形」及び「D 数量関係」に示す事項については、例えば、次のような算数的活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 目的に応じて計算の結果の見積りをし、計算の仕方や結果について適切に判断する活動</p> <p>イ 長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動</p> <p>ウ 身の回りにあるものの面積を実際に測定する活動</p> <p>エ 平行四辺形、ひし形、台形で平面を敷き詰めて、図形の性質を調べる活動</p> <p>オ 身の回りから、伴って変わる二つの数量を見付け、数量の関係を表やグラフを用いて表し、調べる活動</p> <p>〔用語・記号〕</p> <p>和 差 積 商 以上 以下 未満 真分数 仮分数 帯分数 平行 垂直 対角線 平面</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」の(1)については、大きな数を表す際に、3桁ごとに区切りを用いる場合があることに触れるものとする。</p> <p>(2) 内容の「A 数と計算」の(2)のウ、(3)、(4)については、簡単な計算は暗算でできるよう配慮するものとする。また、暗算を筆算や見積りに生かすよう配慮するものとする。</p>	<p>徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について考察すること。</p> <p>〔数学的活動〕</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」, 「B 図形」, 「C 変化と関係」及び「D データの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。</p> <p>ア 日常の事象から算数の問題を見いだして解決し、結果を確かめたり、日常生活等に生かしたりする活動</p> <p>イ 算数の学習場面から算数の問題を見いだして解決し、結果を確かめたり、発展的に考察したりする活動</p> <p>ウ 問題解決の過程や結果を、図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動</p> <p>〔用語・記号〕</p> <p>和 差 積 商 以上 以下 未満 真分数 仮分数 帯分数 平行 垂直 対角線 平面</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」の(1)については、大きな数を表す際に、3桁ごとに区切りを用いる場合があることに触れるものとする。</p> <p>(2) 内容の「A 数と計算」の(2)のアの(ウ)及び(3)については、簡単な計算は暗算でできるよう配慮するものとする。また、暗算を筆算や見積りに生かすよう配慮するものとする。</p>	<p>現行〔算数的活動〕⇒新〔数学的活動〕</p> <ul style="list-style-type: none"> • 数学的活動として、学年ごとに類型が示されている。

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>【A 数と計算 (4) 整数の計算の能力を定着させ、それを用いる能力を伸ばす。】</p> <p>(3) 内容の「A 数と計算」の (3) のエについては、除数及び被除数に同じ数をかけても、同じ数で割っても商は変わらないという性質を取り扱うものとする。</p> <p>(4) 内容の「A 数と計算」の (5) のウについては、整数を整数で割って商が小数になる場合も含めるものとする。</p> <p>【D 数量関係 (3) ア 交換法則、結合法則、分配法則についてまとめること。】</p> <p>【算数的活動】(1) エ 平行四辺形、ひし形、台形で平面を敷き詰めて、図形の性質を調べる活動】</p> <p>(5) 内容の「B 量と測定」の (1) のアについては、アール (a)、ヘクタール (ha) の単位についても触れるものとする。</p> <p>(7) 内容の「D 数量関係」の (4) のアについては、資料を調べるときに、落ちや重なりがないようにすることを取り扱うものとする。</p>	<p>(3) 内容の「A 数と計算」の (3) については、第 1 学年から第 4 学年までに示す整数の計算の能力を定着させ、それを用いる能力を伸ばすことに配慮するものとする。</p> <p>(4) 内容の「A 数と計算」の (3) のアの (エ) については、除数及び被除数に同じ数をかけても、同じ数で割っても商は変わらないという性質などを取り扱うものとする。</p> <p>(5) 内容の「A 数と計算」の (4) のアの (エ) については、整数を整数で割って商が小数になる場合も含めるものとする。</p> <p>(6) 内容の「A 数と計算」の (7) のアの (ア) については、交換法則、結合法則、分配法則を扱うものとする。</p> <p>(7) 内容の「B 図形」の (1) については、平行四辺形、ひし形、台形で平面を敷き詰めるなどの操作的な活動を重視するよう配慮するものとする。</p> <p>(8) 内容の「B 図形」の (4) のアの (ア) については、アール (a)、ヘクタール (ha) の単位についても触れるものとする。</p> <p>(9) 内容の「D データの活用」の (1) のアの (ア) については、資料を調べるときに、落ちや重なりがないようにすることを取り扱うものとする。</p> <p>(10) 内容の「D データの活用」の (1) のアの (イ) については、複数系列のグラフや組み合わせたグラフにも触れるものとする。</p>	<p>現行 A 数と計算 (4) ⇒新 内容の取扱い (3)</p> <p>現行 D 数量関係 (3) ア⇒新 内容の取扱い (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「まとめる」を、「扱うものとする」に変更。 <p>現行〔算数的活動〕(1) エ⇒新 内容の取扱い (7)</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数系列のグラフや組み合わせたグラフに関する記述を追加。
<p>〔第 5 学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 整数の性質についての理解を深める。また、小数の乗法及び除法や分数の加法及び減法の意味についての理解を深め、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。</p> <p>(2) 三角形や平行四辺形などの面積及び直方体などの体積を求めることができるようにする。また、測定値の平均及び異種の二つの量の割合について理解できるようにする。</p>	<p>〔第 5 学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 整数の性質、分数の意味、小数と分数の計算の意味、面積の公式、図形の意味と性質、図形の体積、速さ、割合、帯グラフなどについて理解するとともに、小数や分数の計算をしたり、図形の性質を調べたり、図形の面積や体積を求めたり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。</p>	<p>各学年の目標が、教科の目標に準じて、資質・能力の三つの柱に対応するかたちで整理され、示されている。</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>(3) 平面図形についての理解を深めるとともに、角柱などの立体図形について理解できるようにする。</p> <p>(4) 数量の関係を考察するとともに、百分率や円グラフなどを用いて資料の特徴を調べることができるようにする。</p> <p>2 内 容 A 数と計算</p> <p>(1) 整数の性質についての理解を深める。</p> <p>ア 整数は、観点を決めると偶数、奇数に類別されることを知ること。 イ 約数、倍数について知ること。</p> <p>(2) 記数法の考えを通して整数及び小数についての理解を深め、それを計算などに有効に用いることができるようにする。</p> <p>ア 10 倍, 100 倍, $1/10$, $1/100$ などの大きさの数をつくり、</p>	<p>(2) 数とその表現や計算の意味に着目し、目的に合った表現方法を用いて数の性質や計算の仕方などを考察する力、図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力、伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力などを養う。</p> <p>(3) 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p> <p>2 内 容 A 数と計算</p> <p>(1) 整数の性質及び整数の構成に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 整数は、観点を決めると偶数と奇数に類別されることを知ること。 (イ) 約数、倍数について知ること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 乗法及び除法に着目し、観点を決めて整数を類別する仕方を考えたり、数の構成について考察したりするとともに、日常生活に生かすこと。</p> <p>(2) 整数及び小数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) ある数の 10 倍, 100 倍, 1000 倍, $1/10$, $1/100$ などの</p>	<p>「2 内容」の各項目について、数学的活動を通して、「ア 知識及び技能」、「イ 思考力、判断力、表現力等」を身に付けることができるように指導する。</p> <p>・「1000 倍」を追加。「小数点の位置を移して」</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>それらの関係を調べること。</p> <p>(3) 小数の乗法及び除法の意味についての理解を深め、それらを用いることができるようにする。</p> <p>ア 乗数や除数が整数である場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が小数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。</p> <p>イ 小数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。また、余りの大きさについて理解すること。</p> <p>ウ 小数の乗法及び除法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。</p> <p>(4) 分数についての理解を深めるとともに、異分母の分数の加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。</p> <p>ア 整数及び小数を分数の形に直したり、分数を小数で表したりすること。</p> <p>イ 整数の除法の結果は、分数を用いると常に一つの数として表すことができることを理解すること。</p> <p>ウ 一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさを表すことを理解すること。</p>	<p>大きさの数を、小数点の位置を移してつくること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(7) 数の表し方の仕組みに着目し、数の相対的な大きさを考察し、計算などに有効に生かすこと。</p> <p>(3) 小数の乗法及び除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(7) 乗数や除数が小数である場合の小数の乗法及び除法の意味について理解すること。</p> <p>(イ) 小数の乗法及び除法の計算ができること。また、余りの大きさについて理解すること。</p> <p>(ウ) 小数の乗法及び除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(7) 乗法及び除法の意味に着目し、乗数や除数が小数である場合まで数の範囲を広げて乗法及び除法の意味を捉え直すとともに、それらの計算の仕方を考えたり、それらを日常生活に生かしたりすること。</p> <p>(4) 分数に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(7) 整数及び小数を分数の形に直したり、分数を小数で表したりすること。</p> <p>(イ) 整数の除法の結果は、分数を用いると常に一つの数として表すことができることを理解すること。</p> <p>(ウ) 一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさを表すことを理解すること。</p>	<p>を追加。「それらの関係を調べる」を削除。</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>エ 分数の相等及び大小について考え、大小の比べ方をまとめること。</p> <p>オ 異分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。</p> <p>カ 乗数や除数が整数である場合の分数の乗法及び除法の意味について理解し、計算の仕方を考え、それらの計算ができること。</p> <p>【D 数量関係 (2) 数量の関係を表す式についての理解を深め、簡単な式で表されている関係について、二つの数量の対応や変わり方に着目できるようにする。】</p> <p>C 図形</p> <p>(1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、平面図形についての理解を深める。</p> <p>イ 図形の合同について理解すること。</p>	<p>(エ) 分数の相等及び大小について知り、大小を比べること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 数を構成する単位に着目し、数の相等及び大小関係について考察すること。</p> <p>(イ) 分数の表現に着目し、除法の結果の表し方を振り返り、分数の意味をまとめること。</p> <p>(5) 分数の加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 異分母の分数の加法及び減法の計算ができること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 分数の意味や表現に着目し、計算の仕方を考えること。</p> <p>(6) 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 数量の関係を表す式についての理解を深めること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 二つの数量の対応や変わり方に着目し、簡単な式で表されている関係について考察すること。</p> <p>B 図形</p> <p>(1) 平面図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 図形の形や大きさが決まる要素について理解するとと</p>	<p>現行 A 数と計算 (4) カ⇒新 第 6 学年 A 数と計算 (1)</p> <p>• 第 5 学年からは削除。</p> <p>現行 D 数量関係 (2) ⇒新 A 数と計算 (6)</p> <p>現行 C 図形⇒新 B 図形 (領域の再編成)</p> <p>• 「図形の形や大きさが決まる要素について</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>ア 多角形や正多角形について知ること。</p> <p>エ 円周率について理解すること。</p> <p>ウ 図形の性質を見いだし、それをを用いて図形を調べたり構成したりすること。</p> <p>(2) 図形についての観察や構成などの活動を通して、立体図形について理解できるようにする。</p> <p>ア 角柱や円柱について知ること。</p> <p>【B 量と測定 (1) 図形の面積を計算によって求めることができるようにする。</p> <p>ア 三角形, 平行四辺形, ひし形及び台形の面積の求め方を考えること。】</p> <p>【B 量と測定 (2) 体積について単位と測定の意味を理解し, 体積を計算によって求めることができるようにする。</p>	<p>もに, 図形の合同について理解すること。</p> <p>(イ) 三角形や四角形など多角形についての簡単な性質を理解すること。</p> <p>(ウ) 円と関連させて正多角形の基本的な性質を知ること。</p> <p>(エ) 円周率の意味について理解し, それを用いること。</p> <p>イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し, 構成の仕方を考察したり, 図形の性質を見いだし, その性質を筋道を立てて考え説明したりすること。</p> <p>(2) 立体図形に関わる数学的活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 基本的な角柱や円柱について知ること。</p> <p>イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 図形を構成する要素に着目し, 図形の性質を見いだすとともに, その性質を基に既習の図形を捉え直すこと。</p> <p>(3) 平面図形の面積に関わる数学的活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 三角形, 平行四辺形, ひし形, 台形の面積の計算による求め方について理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 図形を構成する要素などに着目して, 基本図形の面積の求め方を見いだすとともに, その表現を振り返り, 簡潔かつ的確な表現に高め, 公式として導くこと。</p> <p>(4) 立体図形の体積に関わる数学的活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>理解する」を追加。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 現行アの「多角形について知ること」を, 「三角形や四角形など多角形についての簡単な性質を理解すること」に変更。 • 現行アの「正多角形について知ること」を, 「円と関連させて正多角形の基本的な性質を知ること」に変更。 • 「それを用いること」を追加。 <p>• 「基本的な」を追加。</p> <p>現行 B 量と測定 (1) ⇒新 B 図形 (3)</p> <p>現行 B 量と測定 (2) ⇒新 B 図形 (4)</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>ア 体積の単位(立方センチメートル (cm³), 立方メートル (m³)) について知ること。</p> <p>イ 立方体及び直方体の体積の求め方を考えること。】</p> <p>【第 6 学年 B 量と測定 (5) メートル法の単位の仕組みについて 理解できるようにする。】</p> <p>D 数量関係 (1) 表を用いて、伴って変わる二つの数量の関係を考察できるよ うにする。</p> <p>ア 簡単な場合について、比例の関係があることを知ること。</p> <p>【B 量と測定 (4) 異種の二つの量の割合としてとらえられる数 量について、その比べ方や表し方を理解できるようにする。</p> <p>ア 単位量当たりの大きさについて知ること。】</p> <p>【第 6 学年 B 量と測定 (4) 速さについて理解し、求めることが できるようにする。】</p>	<p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 体積の単位 (立方センチメートル (cm³), 立方メートル (m³)) について知ること。 (イ) 立方体及び直方体の体積の計算による求め方について 理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。 (ア) 体積の単位や図形を構成する要素に着目し, 図形の体 積の求め方を考えるとともに, 体積の単位とこれまでに 学習した単位との関係を考察すること。</p> <p>C 変化と関係 (1) 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して, 次の 事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 簡単な場合について, 比例の関係があることを知ること。 イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。 (ア) 伴って変わる二つの数量を見いだして, それらの関係 に着目し, 表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する こと。</p> <p>(2) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量に関わる数学 的活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指 導する。 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方につ いて理解し, それを求めること。</p> <p>イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。</p>	<p>現行 第 6 学年 B 量と測定 (5) ⇒新 B 図形 (4) イ (ア)</p> <p>現行 D 数量関係⇒新 C 変化と関係 (領域の 再編成)</p> <p>• 現行 D (1) の「表を用いて」を, 「表や式 を用いて」に変更。</p> <p>現行 B 量と測定 (4) ⇒新 C 変化と関係 (2)</p> <p>現行 第 6 学年 B 量と測定 (4) ⇒新 C 変化と関 係 (2) ア (ア)</p> <p>• 第 6 学年から「速さ」に関する内容を移動。</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>(3) 百分率について理解できるようにする。</p> <p>D 数量関係</p> <p>(4) 目的に応じて資料を集めて分類整理し、円グラフや帯グラフを用いて表したり、特徴を調べたりすることができるようにする。</p> <p>【B 量と測定 (3) 量の大きさの測定値について理解できるよう</p>	<p>(ア) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすこと。</p> <p>(3) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。</p> <p>(イ) 百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。</p> <p>D データの活用</p> <p>(1) データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 円グラフや帯グラフの特徴とそれらの用い方を理解すること。</p> <p>(イ) データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を知ること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察すること。</p> <p>(2) 測定した結果を平均する方法に関わる数学的活動を通して、</p>	<p>• 割合を用いる場合の理解に関する記述を追加。</p> <p>現行 D 数量関係⇒新 D データの活用 (領域の再編成)</p> <p>• 統計的な問題解決の方法に関する記述を追加。</p> <p>現行 B 量と測定(3)⇒新 D データの活用(2)</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>にする。</p> <p>ア 測定値の平均について知ること。】</p> <p>〔算数的活動〕</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」, 「B 量と測定」, 「C 図形」及び「D 数量関係」に示す事項については, 例えば, 次のような算数的活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 小数についての計算の意味や計算の仕方を, 言葉, 数, 式, 図, 数直線を用いて考え, 説明する活動</p> <p>イ 三角形, 平行四辺形, ひし形及び台形の面積の求め方を, 具体物を用いたり, 言葉, 数, 式, 図を用いたりして考え, 説明する活動</p> <p>ウ 合同な図形をかいたり, 作ったりする活動</p> <p>エ 三角形の三つの角の大きさの和が 180° になることを帰納的に考え, 説明する活動。四角形の四つの角の大きさの和が 360° になることを演繹的に考え, 説明する活動</p> <p>オ 目的に応じて表やグラフを選び, 活用する活動</p> <p>〔用語・記号〕</p> <p>最大公約数 最小公倍数 通分 約分 底面 側面 比例 %</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」の (1) のイについては, 最大公約数や最小公倍数を形式的に求めることに偏ることなく, 具体的な場面に即して取り扱うものとする。また, 約数を調べる過</p>	<p>次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 平均の意味について理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 概括的に捉えることに着目し, 測定した結果を平均する方法について考察し, それを学習や日常生活に生かすこと。</p> <p>〔数学的活動〕</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」, 「B 図形」, 「C 変化と関係」及び「D データの活用」に示す学習については, 次のような数学的活動に取り組むものとする。</p> <p>ア 日常の事象から算数の問題を見いだして解決し, 結果を確かめたり, 日常生活等に生かしたりする活動</p> <p>イ 算数の学習場面から算数の問題を見いだして解決し, 結果を確かめたり, 発展的に考察したりする活動</p> <p>ウ 問題解決の過程や結果を, 図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動</p> <p>〔用語・記号〕</p> <p>最大公約数 最小公倍数 通分 約分 底面 側面 比例 %</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」の (1) のアの (イ) については, 最大公約数や最小公倍数を形式的に求めることに偏ることなく, 具体的な場面に即して取り扱うものとする。</p>	<p>現行〔算数的活動〕⇒新〔数学的活動〕</p> <ul style="list-style-type: none"> • 数学的活動として, 学年ごとに類型が示されている。 <ul style="list-style-type: none"> • 素数に関する記述を削除 (中 1 へ移動)。

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>程で素数について触れるものとする。</p> <p>【算数的活動】(1) ウ 合同な図形をかいたり，作ったりする活動】</p> <p>(2) 内容の「C 図形」の (1) のエについては，円周率は 3.14 を用いるものとする。</p> <p>(4) 内容の「D 数量関係」の (3) については，歩合の表し方について触れるものとする。</p>	<p>(2) 内容の「B 図形」の (1) については，平面を合同な図形で敷き詰めるなどの操作的な活動を重視するよう配慮するものとする。</p> <p>(3) 内容の「B 図形」の (1) のアの (エ) については，円周率は 3.14 を用いるものとする。</p> <p>(4) 内容の「C 変化と関係」の (3) のアの (イ) については，歩合の表し方について触れるものとする。</p> <p>(5) 内容の「D データの活用」の (1) については，複数の帯グラフを比べることにも触れるものとする。</p>	<p>現行〔算数的活動〕(1) ウ⇒新 内容の取扱い(2)</p> <p>• 複数の帯グラフに関する記述を追加。</p>
<p>〔第 6 学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 分数の乗法及び除法の意味についての理解を深め，それらの計算の仕方を考え，用いることができるようにする。</p> <p>(2) 円の面積及び角柱などの体積を求めることができるようにするとともに，速さについて理解し，求めることができるようにする。</p> <p>(3) 縮図や拡大図，対称な図形について理解し，図形についての理解を深める。</p> <p>(4) 比や比例について理解し，数量の関係の考察に関数の考えを用いることができるようにするとともに，文字を用いて式に表すことができるようにする。また，資料の散らばりを調べ統計的に考察することができるようにする。</p>	<p>〔第 6 学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 分数の計算の意味，文字を用いた式，図形の意味，図形の体積，比例，度数分布を表す表などについて理解するとともに，分数の計算をしたり，図形を構成したり，図形の面積や体積を求めたり，表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数とその表現や計算の意味に着目し，発展的に考察して問題を見いだすとともに，目的に応じて多様な表現方法を用いながら数の表し方や計算の仕方などを考察する力，図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し，図形の性質や図形の計量について考察する力，伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し，変化や対応の特徴を見いだして，二つの数量の関係を表や式，グラフを用いて考察する力，身の回りの事象から設定した問題について，目的に応じて適切にデータを収集し，データの特徴や傾向に着目して適切な手法を選択して分析を行い，それらを用いて問題解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察したりする力などを養う。</p> <p>(3) 数学的に表現・処理したことを振り返り，多面的に捉え検討</p>	<p>各学年の目標が，教科の目標に準じて，資質・能力の三つの柱に対応するかたちで整理され，示されている。</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>2 内 容</p> <p>A 数と計算</p> <p>(1) 分数の乗法及び除法の意味についての理解を深め、それらを用いることができるようにする。</p> <p>【第 5 学年 A 数と計算 (4) カ 乗数や除数が整数である場合の分数の乗法及び除法の意味について理解し、計算の仕方を考え、それらの計算ができること。】</p> <p>ア 乗数や除数が整数や小数である場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が分数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。</p> <p>イ 分数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。</p> <p>ウ 分数の乗法及び除法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。</p> <p>【D 数量関係 (3) 数量の関係を表す式についての理解を深め、式を用いることができるようにする。</p> <p>ア 数量を表す言葉や□、△などの代わりに、a、x などの文字を用いて式に表したり、文字に数を当てはめて調べたりすること。】</p>	<p>してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p> <p>2 内 容</p> <p>A 数と計算</p> <p>(1) 分数の乗法及び除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 乗数や除数が整数や分数である場合も含めて、分数の乗法及び除法の意味について理解すること。</p> <p>(イ) 分数の乗法及び除法の計算ができること。</p> <p>(ウ) 分数の乗法及び除法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 数の意味と表現、計算について成り立つ性質に着目し、計算の仕方を多面的に捉え考えること。</p> <p>(2) 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 数量を表す言葉や□、△などの代わりに、a、x などの文字を用いて式に表したり、文字に数を当てはめて調べたりすること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 問題場面の数量の關係に着目し、数量の關係を簡潔か</p>	<p>「2 内容」の各項目について、数学的活動を通して、「ア 知識及び技能」、「イ 思考力、判断力、表現力等」を身に付けることができるように指導する。</p> <p>現行 第 5 学年 A 数と計算 (4) カ⇒新 A 数と計算 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 5 学年から「乗数や除数が整数である場合の分数の乗法及び除法」に関する内容を移動。 <p>現行 D 数量関係 (3) ⇒新 A 数と計算 (2)</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>C 図形</p> <p>(1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、平面図形についての理解を深める。</p> <p>ア 縮図や拡大図について理解すること。</p> <p>イ 対称な図形について理解すること。</p> <p>【B 量と測定 (1) 身の回りにある形について、その概形をとらえ、およその面積などを求めることができるようにする。】</p> <p>【B 量と測定 (2) 図形の面積を計算によって求めることができるようにする。</p> <p>ア 円の面積の求め方を考えること。】</p>	<p>つ一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりすること。</p> <p>B 図形</p> <p>(1) 平面図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 縮図や拡大図について理解すること。</p> <p>(イ) 対称な図形について理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりするとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直したり日常生活に生かしたりすること。</p> <p>(2) 身の回りにある形の概形やおよその面積などに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 身の回りにある形について、その概形を捉え、およその面積などを求めること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 図形を構成する要素や性質に着目し、筋道を立てて面積などの求め方を考え、それを日常生活に生かすこと。</p> <p>(3) 平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 円の面積の計算による求め方について理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 図形を構成する要素などに着目し、基本的な図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、</p>	<p>現行 C 図形⇒新 B 図形 (領域の再編成)</p> <p>現行 B 量と測定 (1) ⇒新 B 図形 (2)</p> <p>現行 B 量と測定 (2) ⇒新 B 図形 (3)</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>【B 量と測定 (3) 図形の体積を計算によって求めることができるようにする。</p> <p>ア 角柱及び円柱の体積の求め方を考えること。】</p> <p>(4) 速さについて理解し、求めることができるようにする。</p> <p>(5) メートル法の単位の仕組みについて理解できるようにする。</p> <p>D 数量関係</p> <p>(2) 伴って変わる二つの数量の関係を考察することができるようにする。</p> <p>ア 比例の関係について理解すること。また、式、表、グラフを用いてその特徴を調べること。</p> <p>イ 比例の関係を用いて、問題を解決すること。</p> <p>ウ 反比例の関係について知ること。</p>	<p>簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。</p> <p>(4) 立体図形の体積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 基本的な角柱及び円柱の体積の計算による求め方について理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 図形を構成する要素に着目し、基本図形の体積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。</p> <p>C 変化と関係</p> <p>(1) 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 比例の関係を意味や性質を理解すること。</p> <p>(イ) 比例の関係をを用いた問題解決の方法について知ること。</p> <p>(ウ) 反比例の関係について知ること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して、変化や対応の特徴を見いだすとともに、それらを日常生活に生かすこと。</p>	<p>現行 B 量と測定 (3) ⇒新 B 図形 (4)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「基本的な」を追加。 <p>現行 B 量と測定 (4) ⇒新 第 5 学年 C 変化と関係 (2)(ア)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 第 6 学年からは削除。 <p>現行 B 量と測定 (5) ⇒新 第 3 学年 C 測定及び第 4, 5 学年 B 図形 (分散して移動)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 第 6 学年からは削除。 <p>現行 D 数量関係⇒新 C 変化と関係 (領域の再編成)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「意味や性質」を追加。 • 「方法について知る」を追加。

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>(1) 比について理解できるようにする。</p> <p>D 数量関係</p> <p>(4) 資料の平均や散らばりを調べ、統計的に考察したり表現したりすることができるようにする。</p> <p>ア 資料の平均について知ること。</p> <p>イ 度数分布を表す表やグラフについて知ること。</p> <p>(5) 具体的な事柄について、起こり得る場合を順序よく整理して調べることができるようにする。</p>	<p>(2) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 比の意味や表し方を理解し、数量の関係を比で表したり、等しい比をつくったりすること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。</p> <p>D データの活用</p> <p>(1) データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 代表値の意味や求め方を理解すること。</p> <p>(イ) 度数分布を表す表やグラフの特徴及びそれらの用い方を理解すること。</p> <p>(ウ) 目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど、統計的な問題解決の方法を知ること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察すること。</p> <p>(2) 起こり得る場合に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 起こり得る場合を順序よく整理するための図や表などの用い方を知ること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p>	<p>• 「意味や表し方」を追加。「数量の関係を比で表したり、等しい比をつくったりする」を追加。</p> <p>現行 D 数量関係⇒新 D データの活用 (領域の再編成)</p> <p>• 代表値に関する内容を追加(中1から移動)。</p> <p>• 「知る」を、「特徴及びそれらの用い方を理解する」に変更。</p> <p>• 統計的な問題解決の方法に関する記述を追加。</p> <p>• 「順序よく整理して調べることができるようにする」を、「順序よく整理するための図や表などの用い方を知る」に変更。</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>[算数的活動]</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」, 「B 量と測定」, 「C 図形」及び「D 数量関係」に示す事項については, 例えば, 次のような算数的活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 分数についての計算の意味や計算の仕方を, 言葉, 数, 式, 図, 数直線を用いて考え, 説明する活動</p> <p>イ 身の回りで使われている量の単位を見付けたり, それがこれまでに学習した単位とどのような関係にあるかを調べたりする活動</p> <p>ウ 身の回りから, 縮図や拡大図, 対称な図形を見付ける活動</p> <p>エ 身の回りから, 比例の関係にある二つの数量を見付けたり, 比例の関係を用いて問題を解決したりする活動</p> <p>[用語・記号]</p> <p>線対称 点对称 :</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」の (1) については, 逆数を用いて除法を乗法の計算としてみることや, 整数や小数の乗法や除法を分数の場合の計算にまとめることも取り扱うものとする。</p> <p>【A 数と計算 (2) 小数及び分数の計算の能力を定着させ, それらを用いる能力を伸ばす。】</p>	<p>(7) 事象の特徴に着目し, 順序よく整理する観点を決めて, 落ちや重なりなく調べる方法を考察すること。</p> <p>[数学的活動]</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」, 「B 図形」, 「C 変化と関係」及び「D データの活用」に示す学習については, 次のような数学的活動に取り組むものとする。</p> <p>ア 日常の事象を数理的に捉え問題を見いだして解決し, 解決過程を振り返り, 結果や方法を改善したり, 日常生活等に生かしたりする活動</p> <p>イ 算数の学習場面から算数の問題を見いだして解決し, 解決過程を振り返り統合的・発展的に考察する活動</p> <p>ウ 問題解決の過程や結果を, 目的に応じて図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動</p> <p>[用語・記号]</p> <p>線対称 点对称 対称の軸 対称の中心 比の値 ドットプロット 平均値 中央値 最頻値 階級 :</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の「A 数と計算」の (1) については, 逆数を用いて除法を乗法の計算としてみることや, 整数や小数の乗法や除法を分数の場合の計算にまとめることも取り扱うものとする。</p> <p>(2) 内容の「A 数と計算」の (1) については, 第3学年から第6学年までに示す小数や分数の計算の能力を定着させ, それ</p>	<p>現行 [算数的活動] ⇒新 [数学的活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 数学的活動として, 学年ごとに類型が示されている。 <ul style="list-style-type: none"> • 「対称の軸」, 「対称の中心」, 「比の値」, 「ドットプロット」を追加。 • 「平均値」, 「中央値」, 「最頻値」, 「階級」を追加 (中1より移動)。 <p>現行 A 数と計算 (2) ⇒新 内容の取扱い (2)</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>(2) 内容の「B 量と測定」の (2) のアについては、円周率は 3.14 を用いるものとする。</p>	<p>らを用いる能力を伸ばすことに配慮するものとする。</p> <p>(3) 内容の「B 図形」の (3) のアの (ア) については、円周率は 3.14 を用いるものとする。</p>	
<p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 第2の各学年の内容は、次の学年以降においても必要に応じて継続して指導すること。数量や図形についての基礎的な能力の習熟や維持を図るため、適宜練習の機会を設けて計画的に指導すること。また、学年間の指導内容を円滑に接続させるため、適切な反復による学習指導を進めるようにすること。</p> <p>(2) 第2の各学年の内容の「A 数と計算」, 「B 量と測定」, 「C 図形」及び「D 数量関係」の間の指導の関連を図ること。</p>	<p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、数学的活動を通して、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象を数理的に捉え、算数の問題を見いだし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ること。</p> <p>(2) 第2の各学年の内容は、次の学年以降においても必要に応じて継続して指導すること。数量や図形についての基礎的な能力の習熟や維持を図るため、適宜練習の機会を設けて計画的に指導すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。また、学年間の指導内容を円滑に接続させるため、適切な反復による学習指導を進めるようにすること。</p> <p>(3) 第2の各学年の内容の「A 数と計算」, 「B 図形」, 「C 測定」, 「C 変化と関係」及び「D データの活用」の間の指導の関連を図ること。</p> <p>(4) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 資質・能力の育成に向けた、主体的・対話的で深い学びの実現に関する記述を追加。 • 10分から15分程度の短い時間を活用した指導（短時間学習）に関する記述を追加。 • 低学年の指導における配慮（幼小接続、スタートカリキュラム）に関する記述を追加。

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>(4) 第 1 章総則の第 1 の 2 に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第 3 章特別の教科道徳の第 2 に示す内容について、算数科の特質に応じて適切な指導をすること。</p> <p>2 第 2 の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(2) 思考力、判断力、表現力等を育成するため、各学年の内容の指導に当たっては、言葉、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れるようにすること。</p> <p>(5) 数量や図形についての感覚を豊かにしたり、表やグラフを用いて表現する力を高めたりするなどのため、必要な場面においてコンピュータなどを適切に活用すること。</p>	<p>入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。</p> <p>(5) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。</p> <p>(6) 第 1 章総則の第 1 の 2 の (2) に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第 3 章特別の教科道徳の第 2 に示す内容について、算数科の特質に応じて適切な指導をすること。</p> <p>2 第 2 の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 思考力、判断力、表現力等を育成するため、各学年の内容の指導に当たっては、具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったり、学び合ったり、高め合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れるようにすること。</p> <p>(2) 数量や図形についての感覚を豊かにしたり、表やグラフを用いて表現する力を高めたりするなどのため、必要な場面においてコンピュータなどを適切に活用すること。また、第 1 章総則の第 3 の 1 の (3) のイに掲げるプログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための活動を行う場合には、児童の負担に配慮しつつ、例えば第 2 の各学年の内容の〔第 5 学年〕の「B 図形」の (1) における正多角形の作図を行う学習に関連して、正確な繰り返し作業を行う必要があり、更に一部を変えることでいろいろな正多角形を同様に考えることができる場面などで取り扱うこと。</p> <p>(3) 各領域の指導に当たっては、具体物を操作したり、日常の事象を観察したり、児童にとって身近な算数の問題を解決したりするなどの具体的な体験を伴う学習を通して、数量や図形</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 障害のある児童などへの配慮に関する記述を追加。 • 「具体物」を追加。「学び合ったり、高め合ったり」を追加。 • プログラミングに関する記述を追加。 • 実感を伴った理解、学ぶ意義に関する記述を追加。

現行（平成 20 年告示／平成 27 年道徳改訂版）	新（平成 29 年告示）	備 考
<p>(3) 各学年の内容に示す〔用語・記号〕は、当該学年で取り上げる内容の程度や範囲を明確にするために示したものであり、その指導に当たっては、各学年の内容と密接に関連させて取り上げるようにし、それらを用いて表したり考えたりすることのよさが分かるようにすること。</p> <p>(1) 数量や図形についての豊かな感覚を育てるとともに、およその大きさや形をとらえ、それらに基づいて適切に判断したり、能率的な処理の仕方を考え出したりすることができるようにすること。</p> <p>(4) 筆算による計算の技能を確実に身に付けることを重視するとともに、目的に応じて計算の結果の見積りをして、計算の仕方や結果について適切に判断できるようにすること。また、低学年の「A 数と計算」の指導に当たっては、そろばんや具体物などの教具を適宜用いて、数と計算についての意味の理解を深めるよう留意すること。</p> <p>【第 3 指導計画の作成と内容の取扱い 1</p> <p>(3) 算数的活動は、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けたり、思考力、判断力、表現力等を高めたり、算数を学ぶことの楽しさや意義を実感したりするために、重要な役割を果たすものであることから、各学年の内容の「A 数と計算」、 「B 量と測定」、 「C 図形」及び「D 数量関係」に示す事項については、算数的活動を通して指導するようにすること。】</p>	<p>について実感を伴った理解をしたり、算数を学ぶ意義を実感したりする機会を設けること。</p> <p>(4) 第 2 の各学年の内容に示す〔用語・記号〕は、当該学年で取り上げる内容の程度や範囲を明確にするために示したものであり、その指導に当たっては、各学年の内容と密接に関連させて取り上げるようにし、それらを用いて表したり考えたりすることのよさが分かるようにすること。</p> <p>(5) 数量や図形についての豊かな感覚を育てるとともに、およその大きさや形を捉え、それらに基づいて適切に判断したり、能率的な処理の仕方を考え出したりすることができるようにすること。</p> <p>(6) 筆算による計算の技能を確実に身に付けることを重視するとともに、目的に応じて計算の結果の見積りをして、計算の仕方や結果について適切に判断できるようにすること。また、低学年の「A 数と計算」の指導に当たっては、そろばんや具体物などの教具を適宜用いて、数と計算についての意味の理解を深めるよう留意すること。</p> <p>3 数学的活動の取組においては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 数学的活動は、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けたり、思考力、判断力、表現力等を高めたり、算数を学ぶことの楽しさや意義を実感したりするために、重要な役割を果たすものであることから、各学年の内容の「A 数と計算」、 「B 図形」、 「C 測定」、 「C 変化と関係」及び「D データの活用」に示す事項については、数学的活動を通して指導するようにすること。</p> <p>(2) 数学的活動を楽しめるようにする機会を設けること。</p> <p>(3) 算数の問題を解決する方法を理解するとともに、自ら問題を見いだし、解決するための構想を立て、実践し、その結果を評価・改善する機会を設けること。</p>	<p>現行 1 (3) ⇒新 3</p> <p>•数学的活動に関して、以下(2)～(5)の記述を追加。</p>

現行 (平成 20 年告示 / 平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
	<p>(4) 具体物, 図, 数, 式, 表, グラフ相互の関連を図る機会を設けること。</p> <p>(5) 友達と考えを伝え合うことで学び合ったり, 学習の過程と成果を振り返り, よりよく問題解決できたことを実感したりする機会を設けること。</p>	